**タイトル**

**―副題―**

第一著者氏名\* （第二著者氏名\*\*）

*\*第一著者所属*

*email@address*

*(\*\*第二著者所属)*

*(email@address)*

要旨

研究概要を400字以内で記すこと。

キーワード：5個以内

1. **はじめに**

　本テンプレートは、『JAAL in JACET Proceedings』のために作成されたものである。MS-Word（2003以降）で保存したデータをJAAL in JACETのウェブサイト上にて提出すること。**締め切りは2020年1月10日23時59分59秒（日本時間）である。**いかなる理由であれ、締め切りを過ぎて提出された原稿は受理されない。なお、予稿集はウェブサイトにて掲載される。

1. **原稿の形式**

　JAAL in JACET予稿集では、応用言語学や言語教育に関する研究論文と実践報告を募集する。

* 1. 形式

A4サイズ（上下30mm、左右15mmの余白）で文章は両端揃え。ページ番号は挿入しない。

　本文は二段組とする（本テンプレートを使用可）。

* 1. フォント

和文は「MS明朝」、英文は「Times New Roman」とし、文字の大きさは以下の表1の通りとする。

　本文の（　　）は全角で統一することとする。

表1. 文字の大きさ

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| Font Size | Style | Text |
| 16pt | 太字 | タイトル（最大3行、中央揃え） |
| 12pt |  | 著者名 |
| 10pt | イタリック | 著者の所属、メールアドレス |
| 10pt | 太字 | セクション見出し |
| 10pt |  | 要旨、本文、小見出し |
| 9pt |  | 図表名、図表の説明、注、謝辞、参考文献 |

1. **図表**

　表のタイトルは表の上に、図のタイトルは図の下に、それぞれ記すこと。本文中で先に言及した図表のみを掲載すること。図表に関しては、多色カラーでもよい。



図1. 図のサンプル

1. **問い合わせ**

　このテンプレートで解決しない疑問点に関しては、jaal\_in\_jacet@naito-lab.net に連絡のこと。**2020年1月5日23時59分59秒（日本時間）まで**の問い合わせには答えられるが、それ以降の質問には返答できないことがある。

**注**

1必要であれば、ここに注を設けること。

2 . . .

**謝辞**

　謝辞を含める場合は、注と参考文献の間に記すこと。

**参考文献**

　参考文献は、日本語、英語で区分けせず、混合のアルファベット順で記載し、APAマニュアル（第6版）に従い、以下のように記すこと。

**(Authored book)**

American Psychological Association. (2010). *Publication manual of the American Psychological Association* (6th ed.). Washington, DC: American Psychological Association.

Huston, A. C., Wartella, E., Donnerstein, E., Scantlin, R., & Kotler, J. (1998). *Measuring the effects of sexual content in the media: A report to the Kaiser Family Foundation.* Oakland, CA: The Kaiser Family Foundation.

Karmiloff-Smith, A. (1992). *Beyond modularity: A developmental perspective on cognitive science.* Cambridge, MA: MIT Press.

田地野彰. (2011).『＜意味順＞英作文のすすめ』東京：岩波書店.

**(Edited book)**

Duck, S. (Ed.). (1988). *Handbook of personal relationships: Theory, research, and interventions*. Chichester, UK: Wiley.

松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター. (編). (2015).『ディープ・アクティブ・ラーニング―大学授業を深化させるために』東京：勁草書房.

**(Journal article)**

Benson, P. (2006). Autonomy in language teaching and learning. *Language Teaching*, *40*, 20–40. doi:10.1017/S026144806003958

関田一彦・安永悟. (2005).「協同学習の定義と関連用語の整理」『協同と教育』1, 10–17.

**(Chapter in an edited book)**

Berndt, T. J., & Savin-Williams, R. C. (1993). Peer relations and friendships. In P. H. Tolan, & B. J. Kohler (Eds.), *Handbook of clinical research and practice with adolescents* (pp. 203–219). Oxford, England: Wiley.

溝上慎一. (2015).「アクティブラーニング論から見たディープ・アクティブラーニング」松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター. (編).『ディープ・アクティブ・ラーニング―大学授業を深化させるために』(pp. 31–51). 東京：勁草書房.

Reis, H. T., & Shaver, P. (1988). Intimacy as an interpersonal process. In S. Duck (Ed.), *Handbook of personal relationships: Theory, research, and interventions* (pp. 367–389). Chichester, UK: Wiley.

**(Translated work)**

Uzawa, H. (1998). *Nihon no kyoiku wo kangaeru* [Thinking about Japanese education]. Tokyo: Iwanami Shoten.

**付録**

　必要であれば、ここに付録を設けること。